

自己評価報告書

平成23年 4 月 25 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320120

研究課題名（和文）18・19世紀の北大西洋海域における文化空間の解体と再生－「境界域」の視点から－

研究課題名（英文）The Atlantic History in the Eighteenth and Nineteenth Centuries: In the Perspective of Cultural Borderland

研究代表者

田中 きく代 (TANAKA KIKUYO)

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：80207084

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：北大西洋海域・文化空間・境界域・学際的・外来者

1. 研究計画の概要

本研究は、18・19世紀に北大西洋に出現するワールドの構造に、文化的次元から、地域コミュニティのレベルから切りこもうとするもので、北大西洋海域の両岸の海岸部あるいは近辺の地域で、古い共同体意識が崩れ、新しい共通意識が創造される過程を、文化人類学の方法を踏まえて、歴史学の立場から実証的に跡付けるものである。研究計画の概要は、アメリカ側の研究者と、ヨーロッパ側の研究者と、カリブ地域の研究者による研究をすり合わせて全体像を描こうとするものである。

2. 研究の進捗状況

過去3年間は、それぞれの研究者が海外調査による研究を進めた。また、分野別の研究会の他に、年間数回の合同研究会を実施し、共同理解を深めてきた。海外調査の概要は次のとおりである。

■2010年度

・金澤周作 →2010.8.18～9.5 イギリス

※大英図書館、ナショナル・アーカイブ、ギルドホール図書館などで、史料調査

・鈴木七美 →2010.9.9～20 カナダ

※マギル大学医学部・人類学部、オスラー医学図書館などで、打ち合わせ及び資料収集

・竹中興慈 →2010.3.18～30 米国

※ニューヨーク市立図書館、ニューヨーク大学、シカゴ大学、シカゴパブリックライブラリー、ノースウェスタン大学で史料調査

■2009年度

・田和正孝 →2009.8.12～21 フランス

※石干見の視察、海洋博物館での資料収集など

・佐保吉一 →2009.8.26～9.8 米国

※St. Croix、St. Thomas、St. John 島で史料調査

・竹中興慈 →2009.9.29～2009.10.8 米国

※シカゴ大学、シカゴパブリックライブラリー、ノースウェスタン大学での史料調査など

■2008年度

・阿河雄二郎 →2008.9.2～15 フランス

※国立図書館、ラロッシュェル、ロシュフォーの史料館での史料調査など

・田中きく代 →2008.8.25～9.7 米国と

2009.3.20～31 米国、

※ニューヨーク歴史協会、マサチューセッツ歴史協会、ボストン市立図書館で、史料調査、研究者との打合せ

・佐保吉一 →2009.3.21～28 米国

※国立公文書館での文献調査

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

最終年度に本研究の集大成として、国際シンポジウムを開催するので、その準備を進めてきた。フランス、アメリカ、韓国、日本の大西洋史研究者による海洋ネットワークのシンポジウムで、2011年10月に開催する予定のものである。また、研究の途中経過を『境界域から見る西洋史』として、2011年9月刊行予定である。

4. 今後の研究の推進方策

2011年度は、先述のように、国際シンポジウムを開催する。研究代表者、分担者も司会、コメンテーター、レスポnderとして参加し、共同理解を深める。年度末には、シンポジウムを含めた最終的な研究報告書を作成し、刊行する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

①阿河雄二郎「近世フランスの狩猟史関係史料—鷹狩と猟犬狩の世界」『歴史と地理』641、(2011)、25-32頁、査読有。

②田和正孝「石干見研究の可能性—回顧と展望」、『関西学院史学』38号(2011)29-62頁、査読無。

③田中きく代「祝祭空間とパレードに見る政治文化—その研究動向と課題」『関西学院史学』37号(2010)、75-92頁、査読無。

④阿河雄二郎「近世フランスにおける難破船略奪と《漂流物取得権》」『人文論究』、60-1、(2010)、111-132頁、査読無。

⑤山泰幸「対談 民話と生きものの住まうまちづくり—環境民俗学からのアプローチ」*Bio City*, no. 46(2010)、30-39頁、査読無。

⑥Nanami Suzuki, “Popular Health Movement

and Diet Reform in Nineteenth-Century America,” *The Japanese Journal of American Studies*, (Society for American Studies in Japan) No. 21 (2010), pp. 111-137 査読有。

〔学会発表〕(計6件)

①Shusaku Kanazawa, Charity and Poor Law: A Comparison between Britain and Japan—The Charity of Meiji Japan under the Western Impact, 1868-1912—, The Fourth Korean-Japanese Forum for British History, Kumamoto University, Nov. 14, 2010

〔図書〕(計11件)

①田中きく代他編著『境界域から見る西洋史』(ミネルヴァ書房、2011年9月予定)

②竹中興慈, 「オスカー・デプリースト—政治家への奇跡」真島一郎編『20世紀<アフリカ>の個体形成: 南北アメリカ・カリブ・アフリカからの問い』(平凡社、2011年)、総768頁

③田中きく代「ラファイエットの凱旋と19世紀の祝賀政治」常松洋他編『アメリカ史のフロンティア I—アメリカ合衆国の形成と政治文化—建国から第一次世界大戦まで』(昭和堂、2010年)52-77頁。

④横山良「カラーラインの乗り越え方—南部ポピュリストの闘いにみる」常松他編『アメリカ史のフロンティア I』(昭和堂、2010年)131-153頁。

⑤田和正孝「伝統漁法石干見の保存と活用—新たな研究へ向けて—」, 国際常民文化研究機構編『国際シンポジウム報告書 I 第1回国際シンポジウム「海民・海域史からみた人類文化」(国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所、2010年)、157-165頁。

⑥金澤周作『イギリス近代とチャリティ』京都大学学術出版会、2008年、総434頁